

【TEL&FAX】

花一会ホームページ

0136-57-6085

【MAIL】

hanaichie@voice.ocn.ne.jp



Facebook



Instagram



Twitter

花一会図書館便り

8・9月号（令和5年9月1日発行）

第12回

「郷土探索への道 番外編」 55年前の子どもたちの文集

8月上旬、『文集 三和の子ども』1～7号（三和小中学校広報部 編）を寄贈いただきました。この文集は1968（昭和43）年から1971（昭和46）年までに発行されたもので、学校行事や日常について書かれた作文が多く、当時の子どもたちや学校の様子がうかがえます。



第1号(1968)

現在はない“農休”（農繁休業）について書かれた作文もありました。



第2号(1969.3)



第3号(1969.11)



第4号(1970.3)



第5号(1970.10)



第6号(1971.3)



第7号(1971.9)

※※今回ご紹介した資料はすべて館内でのご利用をお願いします※※
（貸出はできません）

今月のおすすめ本 コーナー



『アリアドネの声』

井上真偽 著 (幻冬舎)

巨大地震で地下に閉じ込められたであろう女性を、どうやって安全地帯まで誘導するのか。次々に起きる絶体絶命の出来事や様々な疑惑がうごめく中、スリリングな展開とラストの意外性、温かさが心に残る。



『94歳セツの新聞ちぎり絵日記』

木村セツ 著 (里山社)

表紙のビール缶、タイトル、驚くことにすべてちぎり絵である。見れば見るほど、細かい。90歳の時、夫の他界をきっかけにちぎり絵を始めたという著者。そのセンスの良さに感動。日記の文章もほっこりあたたかく、元気をもらえる作品集。

木村セツ



『黄金旅程』

馳星周 著 (集英社)

競馬に興味のない人にこそ読んでほしい1冊。舞台は北海道の馬産地・日高地方。装蹄師で養老牧場を営む主人公、凄腕騎手でありながら刑務所帰りの幼馴染…馬にかかわる人々が己の未来を託すのは尾花栗毛馬のエゴンウ

レア。人と馬の生きざまに胸を熱くせずにはいられない。直木賞作家でもある著者は浦河町出身。



『しょせん他人事ですから①②』

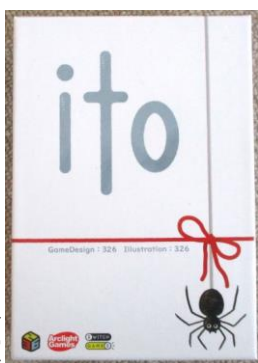
左藤真通 原作、富士屋カツヒト 作画

(白泉社)

ネット炎上、SNSトラブルに強い弁護士のモットーは「他人事」。でも私たち読者にとって今や他人事ではない“誹謗中傷”や“情報開示請求”をリアルに描き、監修も現役弁護士というこのマンガ、一読の価値あります。

ボードゲームで遊みましょう

15100のカードを、数字を言わずに小さい順に並べられる? 会話が楽しい協力ゲーム。



『Ito』

出てくるキャラクターに名前をつけて…記憶力が試される!



『ナンジャモンジャ』

色に合わせたすばやくカードを置くだけ…これが案外難しい!?



『クアドロカラー』

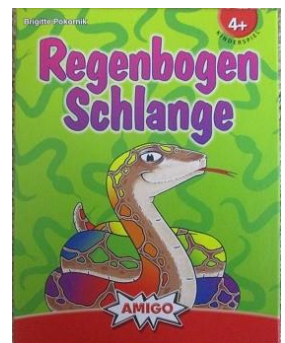
砂時計が落ちるまでにパズルをクリアして宝石をGET!



『ウボンゴ』

ゲームは15種類
1人2セットまで
2週間貸出し
予約可能

ヘビをつなげてつなげて…幼児さんから楽しめるゲーム。



『レインボースネーク』